

見守り支援システム『眠りSCAN(スキャン)』を導入

令和6年度秋田県介護テクノロジー活用支援事業費補助金の交付決定をいただき、令和7年1月に見守り支援システム『眠りSCAN(スキャン)』を、グループホーム山王台（大館市池内字上野234-1）に18台導入しました。

職員の負担軽減、業務の効率化を図ることを目的に、補助金を活用し導入したものです。導入により、業務改善や効率化に繋がり、直接的な介護ケアに充てる時間が増え、入居者・利用者へ質の高い介護サービスを提供することができます。

今後も入居者等への質の高いサービス提供を目指し、介護現場にICTを積極的に取り入れていき、入居者・利用者様にとって、より良い環境の中で生活ができ、質の高いサービスを提供することができるよう努めて参ります。

今回のグループホーム山王台への眠りSCAN(スキャン)導入により、比内ふくし会の入居系（宿泊を含む）事業所（特養2箇所、ショートステイ1箇所、グループホーム3箇所、小規模多機能型居宅介護1箇所）の194床（194台）へ見守り支援システムが導入され、業務の効率化・生産性の向上を図っています。

【眠りSCAN(スキャン)とは・・・】

見守り型の介護支援システムで、ベッドに設置したセンサーにより、睡眠状態・覚醒状態・呼吸数・心拍数・起き上がり・離床の確認が、パソコン上でリアルタイムに把握することができます。また、入居者の状態に合わせたアラーム設定が可能であり、呼吸数や心拍数が著しく低減した場合や下肢筋力低下によって転倒を繰り返す方が起き上がった場合等、アラームを設定することで健康面・転倒面の双方の見守りをすることができます。その他状態の変化など入居者自身でも気付かない体調変化を伝えるアシストをしてくれます。

入居者と職員にとって多くのプラス要素があり、介護の負担軽減が図られています。



【介護支援システム「眠りSCAN(スキャン)」を導入】